

ねんかん29の^{しゅじつ}主日

きょうのふくいん(マタイ22. 15~21)

みなさんのかおをあまりみませんので、どうしているのでしょうか。きょうかいがっこうがおやすみでも、ごミサはまいにちようびにありますので、きてくださいね。

そのとき、ファリサイはのひとびとたちはでいて、どのようにしてイエスのことばじりをとらえて、わなにかけようかとそうだんした。そして、そのでしたちをへロデはのひとびとといっしょにイエスのところにつかわしてたずねさせた。「せんせい、わたしたちは、あなたがしんじつなかたで、しんりにもとづいてかみのみちをおしえ、だれをもはばからないかたであることをしています。ひとびとをわけへだてなさらないからです。ところで、どうおおもいででしょうか、おしえてください。こうていにぜいきんをおさめるのは、りっぼうにかなっているでしょうか、かなっていないでしょうか。」イエスはかれらのあくいにきづいていわれた。「ぎぜんしゃたち、なぜ、わたしをためそうとするのか。ぜいきんにおさめるおかねをみせなさい。」かれらがデナリオンぎんかをもってくと、イエスは「これは、だれのしょうぞうとめいか」といわれた。かれらは「こうていのものです」といった。すると、イエスはいわれた「では、こうていのものはこうていに、かみのものはかみにかえしなさい。」

きょうのおはなしでは、イエスさまをおとしいれようとして、ファリサイはのひとたちが「こうていにぜいきんをおさめることはほりつにかなっていますか」といじわるなしつもんをします。

そのころイスラエルにすむユダヤじんたちは、ローマこうていにしはいされていたので、こうていにぜいきんをおさめなければなりません。もし、ぜいきんをおさめることが「よい」とこたえれば、イエスさまがローマのみかたになる、ほんたいに「わるい」とこたえればローマこうていにさからうことになります。どちらにこたえても、たいへんなもんだいになるしつもんですね。そこで、イエスは「こうていのものはこうていに、かみのものはかみにかえしなさい。」(マタイ22. 21)といわれました。イエスさまはかみのものといっていますが、かみさまのものってなんでしようかと、かんがえてみましょう、なにがうかんできますか。

かみさまはごじしんににせて、わたしたちにんげんをつくれ、あらゆるいのちをおせわし、たいせつにするようにいわれました。「すべてのいのちをまもる」ことをかみさまはのぞんでおられます。すべてのいのちをたいせつにして、かみさまにおかえしができるようにわたしたちがどのようにしたら、よいでしょうか。

まず、ひとはきょうだいとしておたがいにたすけあい、みんながしあわせにいけるようにたすけあいながら、かみさまのぞんでおられることをやってみましょう。

じぶんのまわりにたすけがひつようなひとがいたら、そのひとをたすけることをすすんでやりましょう、またじぶんがなにかいうときにいじわるなことばではなく、ほめることばをいみましょう。みんなとなかよくできるようにがんばりましょう。そのようにしていったら、こころがひろくなって、しあわせになります。そのためにがんばってのりしましょうね。

おしらせ

11月の8日と15日、9時と11時のごミサのあいだに七五三のしゅくふくがあります。ぜひきてくださいね。じぶんの地区のミサにきてくださいね。